

ネットワークの中立性に関する懇談会

P2Pネットワークの在り方に関する作業部会(WG2)

第9回議事要旨

1 日時:平成19年6月18日(月)14:00-16:30

2 場所:総務省 中央合同庁舎第2号館5階 第4特別会議室

3 出席者

(1)構成員(五十音順、敬称略)

浅見 徹、浅羽 登志也、岩浪 剛太、江崎 浩、川村 弘樹、兄部 純一、須澤 通雅、
鈴木 修美、田川 義博、立石 聡明、中村 裕香子、林 栄樹、原 隆一、村田 利文、
山西 正人

(2)総務省

桜井 電気通信事業部長、大橋 データ通信課長、田中 データ通信課課長補佐

4 議題

(1)報告書(案)について

事務局より資料9-1 作業部会報告書(案)について説明があった。主な発言は以下の通り。

●第6章について

- ・ 88頁の問題意識①～④は、まず問題であるのかの検証が必要ということではないか。
- ・ 110頁のトラヒック制御についてどのように合意を形成するかについては具体的な言及がないが、事業者としてはどのように考えるか。社会合意を作るにはある程度の情報公開が必要となる。
- ・ 「利用者の利便性を最大化する」というときに、どのような状態が「利用者の利便性が最大化されている状態」なのかをはっきりさせる必要がある。
- ・ 公平性と公正性は違う。公正であれば公平でなくてもよいと考えるほうがうまくいく。公正とはルールが決まっていること。
- ・ 特定のユーザやアプリケーションに利用の偏りがあるような場合は、制御の対象となるだろう。ただし制御の基準についてはコンセンサスが必要になる。サービスの条件を明示し、利用者が

選択できるようにする必要がある。

●第7章について

- ・ 125 頁は実証実験の目的として、技術的課題やルール面での課題などを明らかにするという記述にすべきではないか。
- ・ 報告書の別添資料の P2P ガイドライン(仮称)の方には目的が明示されているが、実証実験については目的が明示されていない。これでよいのか。
- ・ P2P ガイドライン(仮称)は、一般の利用者が実証実験に参加するため、推進する側として目的を明示している。
- ・ P2P ネットワークは ISP よりも上位に複数構成されるものになるが、ISP が P2P ネットワークを把握するのか。
- ・ これまでの P2P ネットワークは、多くの場合ソフトウェアで提供され、利用者の責任の下に利用されてきた。今後の P2P はサービス提供の手段として活用されると考えられる。その際に事業者が示すべきことについては、今後検討していかなければならない。顧客から ISP に対して、P2P ネットワークのサービスについて質問がくることも十分考えられる。
- ・ その際に大事なことは、サービスと免責の範囲を明確にすることであろう。
- ・ サービス運営者が ISP と交渉できる規模の組織ならいいが、個人レベルの開発の場合はどうなるか。
- ・ サービスとして提供されているか、ソフトウェアとして提供されているかが一つの区別になると考えられるが、どの範囲で何ができるのかよく考えなければならない。
- ・ Winny は結果的にはよくないことも起こしたが、イノベーションとしてはいいものがあったというのは共通認識だと思う。問題が起きたのは実装に原因がある。そのため、ガイドラインを作って開発者が開発の際に参考にしてもらうことが重要だ。
- ・ 117 頁の「オーバーレイネットワークのトラフィックを ISP 等がどう取り扱うのかは、通信キャリアが ISP 等をどう取り扱うのかに通じる」という記述は、どのような意味か。
- ・ 通信キャリアが ISP 等をどのように取り扱うかについては様々なルールがあるように、ISP とオーバーレイネットワークにも何らかのルールが必要ではないかという意味だ。
- ・ オーバレイネットワークと ISP は必ずしも契約関係にないという点で通信キャリアと ISP の場合とは異なっている。通信キャリアと ISP の関係を単純にオーバーレイネットワークと ISP の関係に当てはめることはできないのではないか。
- ・ 将来、ISP とオーバーレイネットワークを利用したサービス提供事業者は永久にそういう関係になるのだろうか。オーバーレイネットワークのサービス提供事業者は ISP から完全に自由にビジネスを展開することになるのだろうか。特定のオーバーレイネットワークの事業者のトラフィックに対して

契約なりの関係性が生じることもあるのではないかと。

- ・ その点は同感だが、ISP 間や通信キャリアと ISP の間でも発生する問題ではないだろうか。
- ・ ISP と交渉してサービスを提供する事業者がいてもよいし、交渉しない事業者がいてもよい。その自由度を担保することが重要なのではないかと。

本日の意見を踏まえた報告書のとりまとめは、座長に一任された。

以上